

## 第 26 (19) 話 校歌観

今、校歌を斉唱した。卒業式でも斉唱するが、皆さんは校歌についてどう思っているか？  
皆さんの「校歌観」や如何。

本校の校歌の根幹は、校是である「至誠一貫」「堅忍力行」の実践を生徒に訴える点にあるが、批判も多い。

特に批判が多いのが、2番の「帝国」のくだり。皆さんはどう解釈しているか？

私の解釈はこうだ。「帝」とは、みかど。日本でいえば天皇のこと。天皇の英訳は、戦前から emperor で変わらない。一方で、天皇の位置づけは、時代によって異なる。戦前と戦後で大きく変わった。すなわち、戦前の「統治権の総攬者」から、戦後は「日本国の象徴であり日本国民統合の象徴」となった。つまり、「帝国」とは、現行憲法にのっとって解釈すれば、「天皇を象徴とする国」「象徴天皇制をとる国」となる。

その他、1番の「忠孝仁義の大道」等も問題視される。特に「忠」「臣民」として主君（天皇）に忠誠を、というのが元々の意味だろうが、ここも「個人の尊重」を原則とする現行憲法に照らし、「自分の思い、自分の使命（ミッション）に忠実に」と解釈したい。すなわち「わが道をゆけ」ということだ。

以上が私の校歌観だが、皆さんも、校歌についてよく考え、自分なりの校歌観を持ってほしい。本校の校歌は世界や世界の中の日本、日本の中の個人、個人の中の道徳心をうたったものだから、校歌について深く考えることで、自己の世界観や国家観、道徳観も深まっていく。自由討論でも、校歌に関する議論が大いにあって良い。

なお、私はいつも皆さんに「備えよ、常に」(Be prepared)と言っているが、それは校歌の最後の「ゆめ怠るな」を言い換えたものだ。今日は、東日本大震災から15年。災害にも、未来にも準備を怠らず、備えよ、常に一千人！

茨城県立水戸第一高等学校・附属中学校校歌

古賀快象 作詞 片岡亀雄 作曲

1. 旭輝く日の本の光栄（はえ）ある今日のそのもとは義人烈士の功績（いさおし）ぞ  
忠孝仁義の大道を貫く至誠あるならば天地も為に動きなん
2. 世界にきおう列強とならびて進む帝国の基礎（もとい）は堅忍力行ぞ  
花朝月夕つかのまも古人に恥じぬ心してゆめ怠るな一千人